

1 つぎの もんだいに こたえましょう。

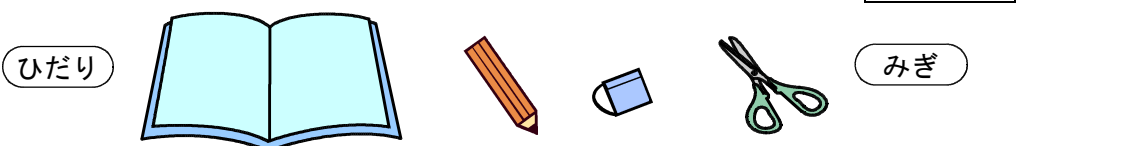
（1）まえから 3ばんめを ○で かこみましょう。



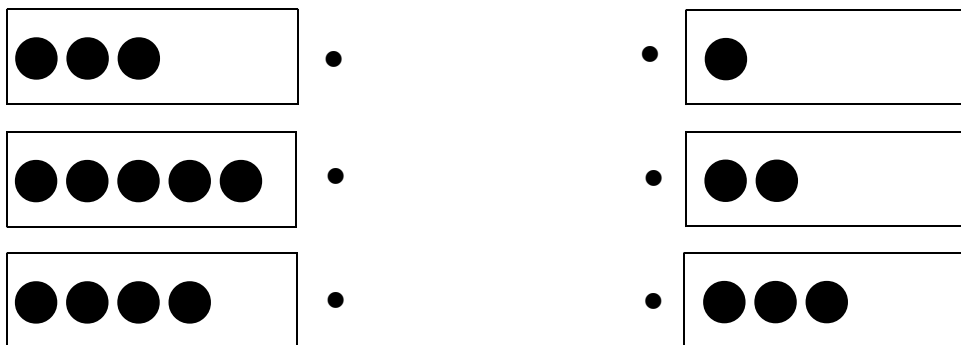
（2）みぎから 4こまで ○で かこみましょう。



（3）えんぴつは みぎから なんばんめでしょう。



2 ひだりの しかくの 中の ●と みぎの しかくの 中の ●が あわせて 6こに なるように せんで つなぎましょう。



3

つぎの もんだいに こたえましょう。

(1) ちゅうしゃじょうに くるまが 5だい とまっています。

あと 2だい くと、ぜんぶで なんだいに なるでしょうか。

したの 【ず】を つかって かんがえ、

しきと こたえを かきましょう。

【ず】 ●●●●● ●●

しき

こたえ

(2) ももいろの はなが 4ほん さいて います。

みずいろの はなが 6ぽん さいて います。

はなは ぜんぶで なんぽん さいて いますか。

したの 【ず】を つかって かんがえ、

しきと こたえを かきましょう。

【ず】 ●●●● ●●●●●●

しき

こたえ

1

つぎの 計算を ひっ算でしましょう。

(1) $64 - 12$

(2) $36 - 16$

(3) $82 - 50$

(4) $70 - 33$

2

つぎの ①から④までの ひっ算の 中から 答えの 正しいものを すべて えらび、ばんごうを かきましょう。

①

$$\begin{array}{r} 47 \\ - 28 \\ \hline 19 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r} 52 \\ - 16 \\ \hline 46 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r} 83 \\ - 45 \\ \hline 38 \end{array}$$

④

$$\begin{array}{r} 43 \\ - 20 \\ \hline 27 \end{array}$$

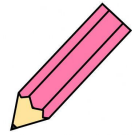
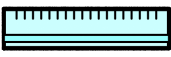
3

15 + 32の しきに なる もんだいを つくりましょう。
(しき、こたえは かかなくても いいです。)

※つぎのページにももんだいがあります。

4

ぶんぼうぐの ^{かず} 数を あらわした グラフが あります。
えんぴつと けしごおでは、どちらが ^{おお} いくつ 多いですか。

	○			
	○			
	○			
	○		○	
	○	○	○	
○	○	○	○	
○	○	○	○	○
				
はさみ	えんぴつ	じょうぎ	けしごお	ノート

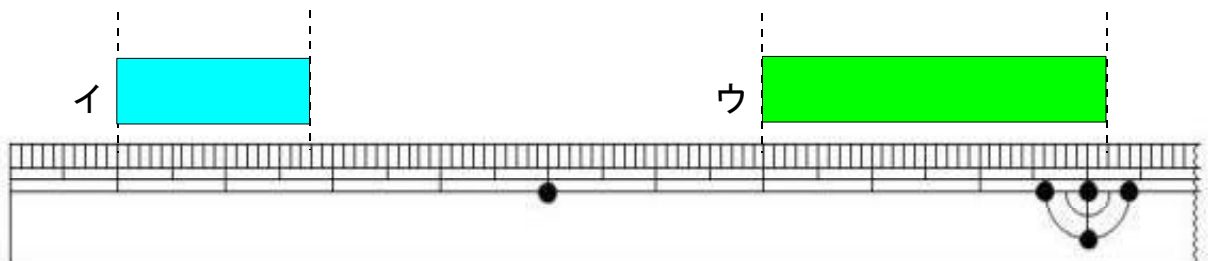
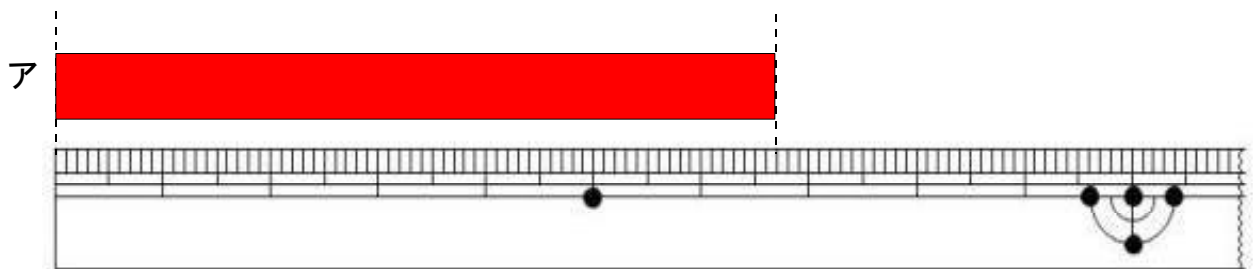
こたえ

が

^{おお} 多い。

5

アからウの テープの長さ ^{なが} は、それぞれ ^{なん} 何 c m ^{なん} 何 m m ですか。



ア c m m m イ c m m m ウ c m m m

1

いろいろなかけ算のきまりを使った、(1)～(3)までのかけ算の式があります。使ったかけ算のきまりを、下のアからウまでの中から1つずつえらび、記号を書きましょう。

(1) $7 \times 3 = 3 \times 7$

使ったかけ算のきまり

(2) $5 \times 0 = 0$

使ったかけ算のきまり

(3) $4 \times 10 = 4 \times 9 + 4$

使ったかけ算のきまり

ア どんな数に0をかけても答えは0になります。

イ かける数が1ふえると、答えはかけられる数だけ大きくなります。

ウ かけられる数とかける数を入れかえて計算しても、答えは同じになります。

2

たけしさんは、210円のお菓子を買に行きます。家の人から500円玉を1まいと10円玉を1まいわたされました。

500円あれば足りるのに、どうして家の人から510円をわたしたのか、たけしさんは、次のように考えました。



500円玉1まいではらうと、 $500 - 210 = 290$ で、おつりは290円です。

510円をはらうと、おつりは10円多くなるので、(①) 円になります。

だから、家的人是、おつりのこう貨の (②) がいちばん少なくなるようにしてくれたのだと思います。

(1) ①にあてはまる数を書きましょう。

(2) ②にあてはまるものを、次のアからウまでの中から1つえらび、記号を書きましょう。

ア まい数と金がかく

イ しゅるいと金がかく

ウ まい数としゅるい

※ 次のページにも、もんだいがあります。

3

ゆみさんは、 $152 - 43$ の計算をするとき、次のように筆算をしました。

ゆみさんの筆算のまちがいを、言葉と数を使って説明しましょう。
また、正しい筆算をしましょう。

ゆみさんの筆算

$$\begin{array}{r} 152 \\ - 43 \\ \hline 119 \end{array}$$

まちがいの説明

正しい筆算

4

次の問題に答えましょう。

(1) 答えをもとめる式が $8 \div 2$ になるものをアからオまでの中からすべてえらび、記号を書きましょう。

ア 1ふくろ8こ入りのあめが2ふくろあります。あめは全部で何こありますか。

イ りんごが8こあります。一人に2こずつ分けると、何人に分けられますか。

ウ クッキーが8まいあります。2まい食べると、のこりは何まいですか。

エ 8人の子どもにチョコレートを2こずつくばります。チョコレートは何こ必要ですか。

オ 8人を同じ人数ずつ2つのチームに分けます。1チームは何人になりますか。

(2) $12 \div 3$ の式になる問題をつくりましょう。
(式、答えは必要ありません。)

1

太郎さんは、627枚の色紙を、何人かで同じ数ずつ分けようとしています。次の問題に答えましょう。

- (1) 太郎さんは、色紙を3人で分けようと考え、1人分が何枚になるのかを計算するとき、右のように筆算をし、そのことを説明しました。
□にあてはまる数を書きましょう。

$$\begin{array}{r} 209 \\ 3 \overline{) 627} \\ \underline{6} \\ 27 \\ \underline{27} \\ 0 \end{array}$$

【太郎さんの筆算の仕方】

太郎さんの説明

まず、わられる数の百の位の6をわる数の□でわります。

$6 \div 3 = \square$ なので、百の位に□をたてます。

次に、わられる数の十の位の□をおろします。

$2 \div 3$ はできないので、十の位に□をたてます。

そして、わられる数の一の位の□をおろします。

□ $\div 3 = 9$ なので、一の位に9をたてます。

わる数の3とたてた9をかけて27になります。

さいごに、□から27をひくと0になります。

だから、商は□です。

(すべてできて正解)

- (2) 太郎さんは、色紙を8人で分けようと考え、次のように筆算をし、「77あまり11」と筆算の答えを出しましたが、答えがまちがっています。
どこがまちがっているのかを説明して、正しい筆算の答えを書きましょう。

$$\begin{array}{r} 77 \\ 8 \overline{) 627} \\ \underline{56} \\ 67 \\ \underline{56} \\ 11 \end{array}$$

【太郎さんの筆算】

(説明)

(筆算の答え)

※次のページにも、問題があります。

2

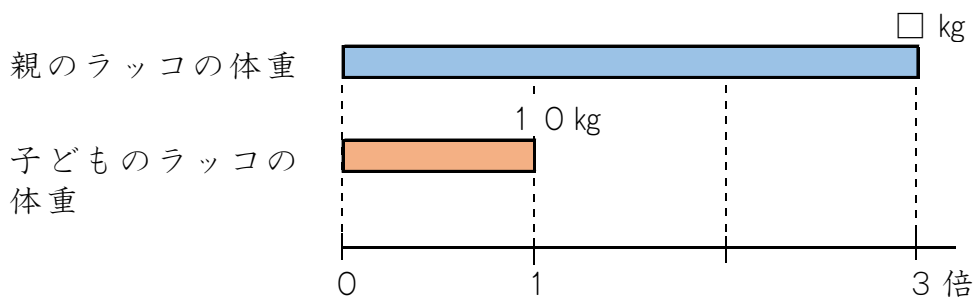
ケーキのねだんは315円です。このケーキのねだんは、クッキーのねだんの3倍です。クッキーのねだんは何円ですか。式と答えを書きましょう。

式

答え

3

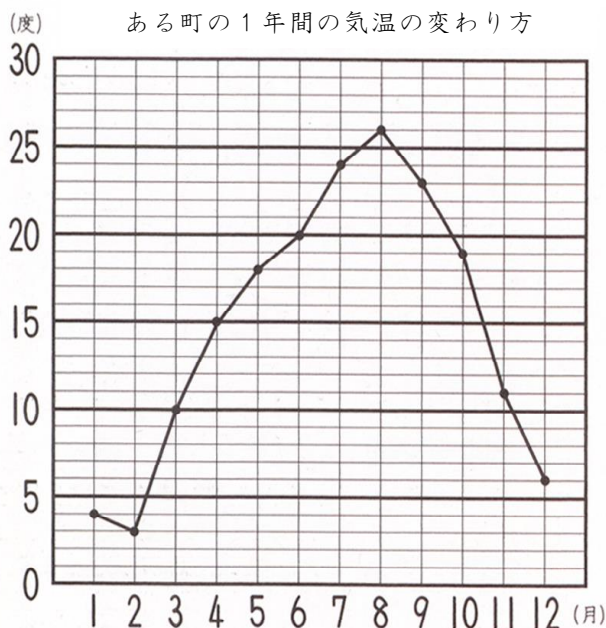
下の図の説明として正しくない文を1から4までの中から1つ選び、番号を書きましょう。



- 1 子どものラッコの体重は10 kgです。
- 2 子どものラッコの体重は、親のラッコの体重の3倍です。
- 3 親のラッコの体重と子どものラッコの体重をくらべています。
- 4 親のラッコの体重を□ kgとしています。

4

下の折れ線グラフは、ある町の1年間の気温の変わり方を調べたものです。次の問題に答えましょう。

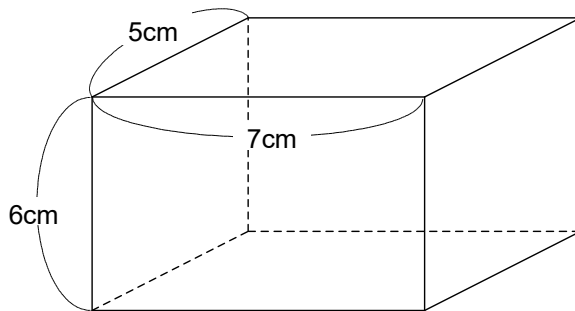


- (1) 気温の上がり方が一番大きいのは、何月から何月までの間ですか。

- (2) 気温が一番高いときと一番低いときの差は、何度ですか。

1

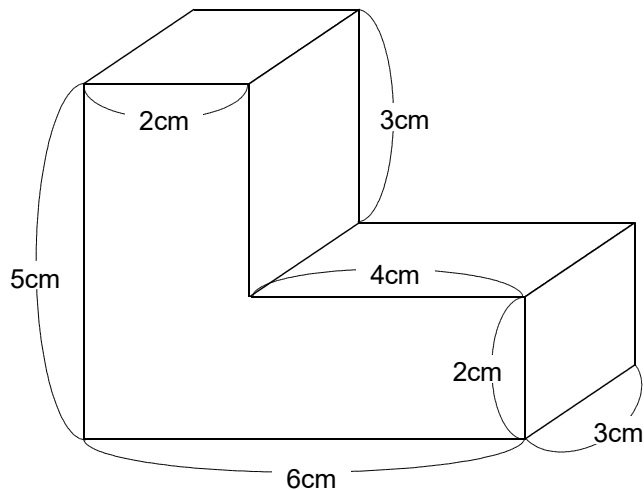
次の立体の体積を求めましょう。



c m³

2

次の立体の体積を求める式を2とおりつくしましょう。
(答えを求める必要はありません。)



3

次の問題に答えましょう。

(1) 0.246を100倍した数を書きましょう。

(2) に当てはまる数を書きましょう。

$$3.058 = 1 \times 3 + 0.1 \times 0 + 0.01 \times \text{} + 0.001 \times 8$$

4 1、4、5、9 のカードを1まいずつ使い、下の□にあてはめて小数をつくります。

.

(1) つくることができる数のうち、いちばん大きい数をつくりましょう。

(2) つくることができる数のうち、5にいちばん近い数をつくりましょう。

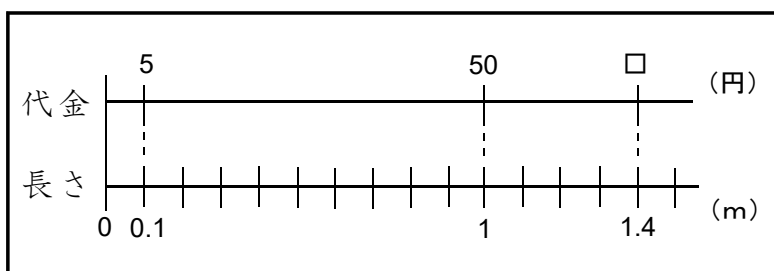
5 1 mのねだんが50円のリボンがあります。このリボン1.4 mの代金を求める計算の仕方について考えます。

ゆうさんとあいさんは、整数の計算をもとにして、次のように考えました。2人の考えの1、2にあてはまるものを、下のアからオまでの中から、1つずつ選んで、その記号を書きましょう。

ア 10 イ 0.1 ウ 50 エ 14 オ 1.4

(1) ゆうさんの考え

1.4 mは、0.1の14倍だから、リボン0.1 mのねだんを求めて、1倍すれば、答えが出せると思うよ。



(2) あいさんの考え

リボンの長さを10倍すると、整数で計算できるけれど、答えも2倍になるから、答えを10でわるといいね。

$$\begin{array}{rcl}
 50 & \times & 1.4 = \boxed{} \\
 & & \downarrow \begin{array}{l} 10 \text{ を} \\ \text{かける} \end{array} \\
 50 & \times & 14 = 700
 \end{array}$$

$$\begin{array}{c}
 \uparrow \begin{array}{l} 10 \text{ で} \\ \text{わる} \end{array} \\
 \boxed{}
 \end{array}$$

1

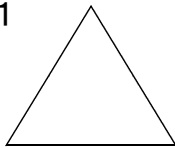
次の計算をしましょう。

$$3 \times \frac{3}{7}$$

2

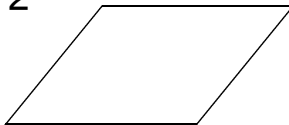
下の 1 から 4 までの図形について、次の問題に答えましょう。

1



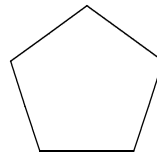
正三角形

2



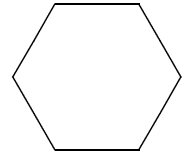
平行四辺形

3



正五角形

4



正六角形

- (1) 線対称な図形をすべて選んで、その番号を書きましょう。

- (2) 点対称な図形をすべて選んで、その番号を書きましょう。

3

次の問題に答えましょう。

- (1) 色紙が 8 たばと 3 枚あります。1 たばの色紙の数を x 枚、全部の枚数を y 枚として、全部の枚数を表す式を書きましょう。

- (2) 次の①、②の式に表される場面を下の ア から エ までのの中から選んで、記号を書きましょう。

① $36 - x = y$

② $36 \div x = y$

ア x ページの本があります。36 ページ読んだときの残りは y ページです。

イ 面積が 36 cm^2 の平行四辺形があります。底辺が $x \text{ cm}$ のとき、高さは $y \text{ cm}$ です。

ウ 赤い紙が x 枚、白い紙が y 枚あり、赤い紙と白い紙の合計は 36 枚です。

エ x 個のあめを 36 人で等分したら、一人分は y 個でした。

4

$\frac{2}{3} \times \frac{1}{5}$ の計算の仕方を、次のように説明しました。

【説明】

かける数を整数にして考えました。まず、かける数を整数にするために、 $\frac{1}{5}$ を 5 倍しました。

$$\frac{1}{5} \times 5 = 1 \text{ なので、} \frac{2}{3} \times \left(\frac{1}{5} \times 5 \right) = \frac{2}{3} \text{ となります。}$$

このままでは、積も 5 倍になるので、積を 5 でわって、 $\frac{2}{3} \div 5 = \frac{2}{15}$ となります。だから、答えは $\frac{2}{15}$ です。

この説明に合う考え方を、下の **ア** から **エ** までのの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

【考え方】

ア

$$\begin{array}{l} \frac{2}{3} \times \frac{1}{5} = \frac{2}{3} \div 5 \\ \downarrow \times 5 \\ \frac{2}{3} \times \left(\frac{1}{5} \times 5 \right) = \frac{2}{3} \end{array} \quad \begin{array}{l} \leftarrow \\ \div 5 \end{array}$$

イ

$$\begin{array}{l} \frac{2}{3} \times \frac{1}{5} = \frac{2}{3} \\ \downarrow \times 5 \quad \downarrow \times 5 \\ \frac{2}{3} \times \left(\frac{1}{5} \times 5 \right) = \frac{2}{3} \times 5 \end{array}$$

ウ

$$\begin{array}{l} \frac{2}{3} \times \frac{1}{5} = \frac{2}{3} \div 5 \\ \downarrow \times 5 \quad \downarrow \times 5 \\ \frac{2}{3} \times \left(\frac{1}{5} \times 5 \right) = \frac{2}{3} \times 5 \end{array} \quad \begin{array}{l} \leftarrow \\ \div 5 \end{array}$$

エ

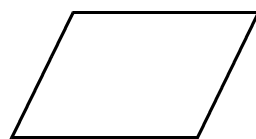
$$\begin{array}{l} \frac{2}{3} \times \frac{1}{5} = \frac{2}{3} \\ \downarrow \times 5 \\ \frac{2}{3} \times \left(\frac{1}{5} \times 5 \right) = \frac{2}{3} \div 5 \end{array} \quad \begin{array}{l} \leftarrow \\ \div 5 \end{array}$$

5

右の図のような平行四辺形の対称^{たいしょう}の中心のを見つけ方を、次のように説明しました。

【説明】

平行四辺形の 2 本の対角線^{たいしょう}を引き、交わったところが対称^{たいしょう}の中心です。



この説明の理由となる性質を、下の **ア** から **エ** までのの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア** 対応する 2 つの点を結ぶ直線は、対称^{たいしょう}の軸と垂直^{すいちよく}に交わります。
- イ** 対応する 2 つの点を結ぶ直線は、対称^{たいしょう}の中心を通ります。
- ウ** 対称^{たいしょう}の軸と交わる点から、対応する 2 つの点までの長さは等しくなっています。
- エ** 向かい合った辺の長さは等しくなっています。